

「人財」でお困りなら
 株式会社
mi ミヨシ・ロジスティックス
 042-779-6619 <http://miyoshi-log.co.jp/>

題字制作：株式会社クライムエヌシーデー

KANAKEI
かながわ経済新聞®

人と会社を育てる
Business Design
<http://www.business-design.co.jp/>
 042-730-7886 税理士法人 **ひんく**

2016年 10月号 Vol.034

② **ロボ普及がもたらすもの**

かながわ経済新聞
 2016.10月号

吉田 英訓の
 連載記事が掲載されました。



吉田英訓の
着眼大局 着手小局
 ～人と企業～

前回から雇用の多様化という視点で、人ではなくロボット、とくに産業用ロボットに焦点を当て、現状を踏まえながらマクロ的な視点でお話ししています。

今回も引き続き産業用ロボットについてのデータ、前回同様、ポストンコンサルティンググループの調査結果をベースにお話しします。

産業用ロボットへの投資額は、現在の2〜3%から、今後10年間で10%へと急増。そして購入台数の8割を中国、アメリカ、日本、ドイツ、韓国の上位5カ国が占めるという、現在の傾向は10年間続くと思われる。

産業用ロボット急拡大の要因は、「低コスト化」と「高機能化」です。それにより、中小企業間の普及が進むとも考えられています。ロボットの導入コストは急低下しているのです。例えば、ロボット溶接ロボットにかかる

費用は、2005年の18.2万円から14年には13.3万円と、27%も低下。25年までにはさらに22%低下すると予測されています。

一方、ロボットの機能は、毎年5%の向上が見込まれています。

長年、ロボットの導入の大きな障壁となっていた価格と機能面での制約が急速に改善されることにより、今後5〜10年間で、中小企業でのロボット導入が進むと考えられます。

上記の内容を踏まえ、次回から、弊社のロボット導入と今後の方向性について紹介していきます。

(南西フォーラム委員長 / ミヨシ・ロジスティックス代表取締役)